

田代島の四季・花マップ

春・夏・秋・冬編

この「田代島の四季・花マップ」は、社会福祉法人宮城県共同募金会助成事業の助成を受けて作製されました。

野生植物研究所

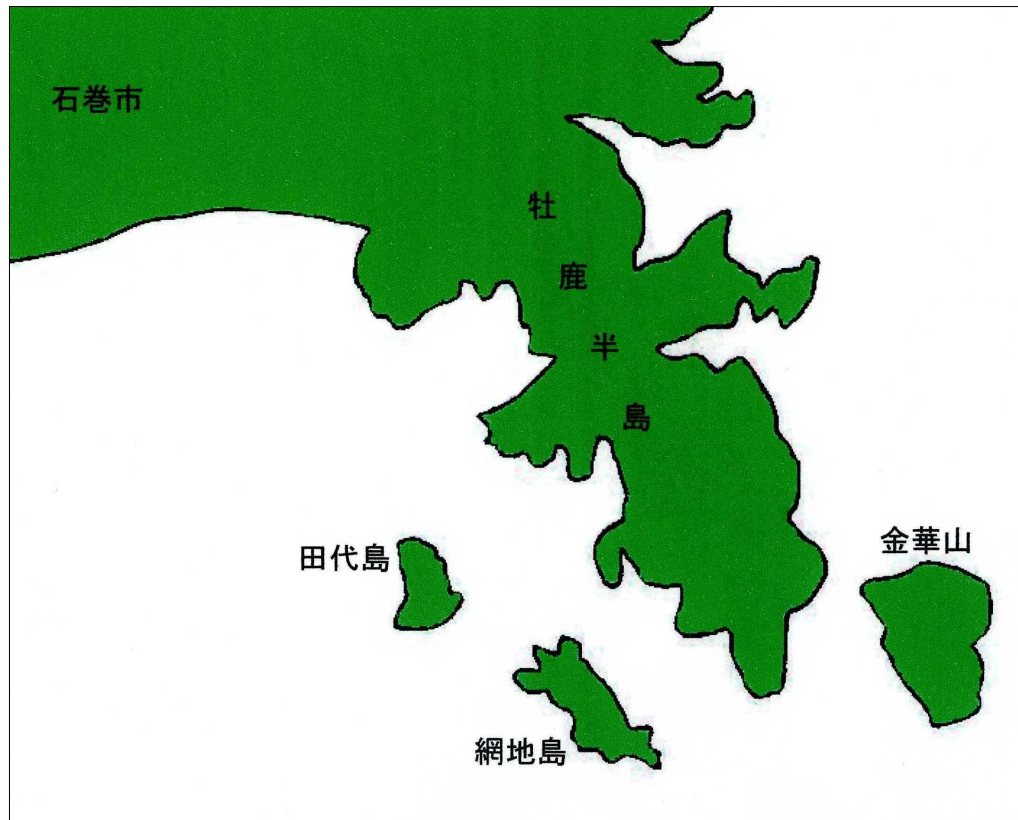
高橋和吉



田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編

- 田代島とは

田代島(石巻市)は、牡鹿半島の西側に位置し、石巻市の中心から南南東約20kmの所にあります。島は東西約1.5km、南北3km程で、その形は北が狭く、南が広い、「ひょうたん」のような形をしています。



田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編

- **島の集落**

集落は、大きく2つに分かれ、大泊(おおどまり)と仁斗田(にとだ)があります。

- **島の人口**

島の人口は、昭和35年当時は1,000人を超えていましたが、過疎化現象が進み、現在は約100人ほどで、高齢化が進んでいます。

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編

- 気候

温暖で、寒暖の差が少なく、厳冬の期間でも、月平均気温が0℃以下になることはありません。雪が降っても2～3日で解けてしまいます。

- 常緑樹・シダ植物の多い島

常緑樹のタブノキ、トベラ、ヒサカキなどが多く、また、シダ植物の宝庫で、田代島を北限とするシダや、県内では田代島だけに自生するという種類もあります。

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編

観察コース

仁斗田(にとだ)から稲田跡、あずまやを通り、一周して仁斗田にもどるコース、

仁斗田にもどらずに大泊(おおどまり)に行くコース、

大泊から二鬼城燈台へ行き、引き返すコースなどがあります。

いずれも様々な樹木や草花が豊富に見られます。

貴重な植物(特にシダ植物)が多いため、自生地の場所は示しておりません。

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～春～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

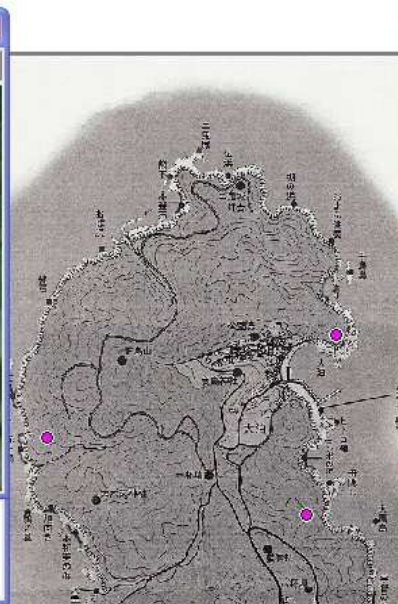
春1

カジイチゴ



カジイチゴ(バラ科)

島や海岸近くに見られる。高さ2mほどになり、葉も大型で、幅は20cmほどにもなる。果実は橙色に熟し、食べられる。



春1

カラスノエンドウ



カラスノエンドウ(マメ科)

野原や空き地など、いたる所に生える二年草。巻きひげで他の植物にからみつきながら、上に向かって伸びる。紫色の蝶形の花が咲き、豆のような果実ができる。似た種類に花の小さいスズメノエンドウがある。山菜の一つ。

春1

シロダモ



シロダモ(クスノキ科)

山地や低地の森林に生える高さ10~15mになる常緑高木。雌雄異株。幹は直立し、樹皮は紫褐色~暗褐色。若枝には黄褐色の絹毛がある。葉は互生し、葉柄があり、長楕円状披針形で、先端は尖り、3本の脈が目立つ。花は散形花序で、葉腋に黄褐色の小花を多数つけ、翌年の秋、楕円状球形の果実が赤色に熟す。

春1

トウダイグサ



トウダイグサ(トウダイグサ科)

日当たりのよい荒地や畑などに生える二年草。高さ20~30cmほどになり、葉はへら型で、茎の中程の葉は互生するが、頂部では5枚ずつ輪生する。茎頂から放射状に花茎を伸ばし、碗状の苞葉の中に黄色の花を複数つける。その様子を燈火の皿に見立てて名がつけられた。茎や葉を傷つけると白い乳液を出す。毒草の一つ。

春1

サルトリイバラ



サルトリイバラ(ユリ科)

日当たりのよい原野、丘陵などに生える蔓性の低木。雌雄異株。高さ2mほどになり、茎は節毎に曲り硬く、まばらに刺があり、分枝する。葉は互生し、円形~広楕円形。葉柄の基部にある2個の托葉の先端が伸びて巻きひげとなり、他のものからみつき、新枝の葉腋から散形花序を出し、淡緑色の小さな6弁花を多数つける。果実(液果)は球形で紅熟する。葉草の一つ。



N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～春～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

春2 ヤマダグワ 内容 リンク



ヤマダグワ(クワ科)

浅い山や丘陵に生える雌雄異株又は同株の落葉性高木。高さ10mにもなり、幹は直立し、上部で分枝する。葉は互生し、柄があり、卵形で尖り、鋸歯があり、表面はざらつく。片側に深く切れ込みなど変化も多い。新枝の下部から柄のある穂状花序を垂らし、淡黄色の小さな裸花を多数つける。花後に宿存萼が肥大してクワコ(獲果)となり、白から赤、最後は黒く熟す。

春2 アマドコロ 内容 リンク



アマドコロ(ユリ科)

日当たりのよい草原や雑木林などに生える多年草。高さ30～80cmになり、地下茎は長く横に這う。地下茎の先から出る茎は直立して、上部は弓状に少し曲がり、緑色で根元は紫色を帯びる。葉は互生し、長楕円形で無毛、裏面は粉白色を帯びる。葉腋から細い花茎を出し、緑白色で細長い鐘形花を1、2個下向きにつける。花後に球形の液果を結び、黒紫色に熟す。

春2 スイバ(雄株) 内容 リンク



春2 シャク 内容 リンク



春2 スイバ(雌株) 内容 リンク



春2 オオジシバリ 内容 リンク



オオジシバリ(キュウ科)

田の畔や道端など、湿った場所に生える高さ10～30cmになる多年草。葉はへら形で、下部が羽状に切れ込むことが多く、柄はジシバリに比べて短い。1～3回ほど分枝し、先端に黄色の舌状花からなる3cmほどの頭花をつける。名は「大型のジシバリ」を意味するが、ジシバリの名は、走出枝を出し、節々で株をつくり発根することからついた。



春2 シャク(セリ科)

山地の日陰など、やや湿った場所に生える多年草。茎は直立して数回分枝し、高さ70cm～1.5mになる。葉は互生し、長い葉柄があり、2回3出羽状複葉で、小葉は細かく裂ける。茎先に複散形花序を出し、小さな白色の5弁花をつける。外側の花弁が大きく、総苞片はない。2本の花柱は外側に曲がる。

春2 スイバ(タデ科)

日当たりのよい草地などに生える高さ30cm～1mになる多年草。雌雄異株。茎は直立し、紅色を帯びる。地下茎から赤紫色の根生葉を出し、ロゼット状で越冬する。葉は互生し、上部では茎を抱く。茎頂に円錐状の花穂をつけ、小花を多数輪生する。雌花は紅色、雄花は淡緑色で目立たない。茎葉にシュウ酸を含み、酸味があることからスイバ(酢葉)の名がついた。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～春～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

ウラシマンソウ

ウラシマンソウ(サイイモ科)

山地の湿った木陰などに生える雌雄異株の多年草。葉柄は長さ18~40cm、多肉質の長円球形で暗紫色。葉は1枚で緑色、葉面は鳥の足のように分かれる。葉柄の基部から1本の短柄を出し、長さ10cmほどの肉穂花序をまっすぐに出す。肉穂花序の上部は紫黒色の長いもちのような形で、筒口から出て一旦立ってから、上部は長い糸のように垂れる。全草猛毒。

ゼンマイ

ゼンマイ(ゼンマイ科)

林内、原野、岩場などの湿った場所に生える夏緑性の多年草。高さは60cm~1mになる。根茎は大きく、塊状で斜上し、枯れた葉柄の基部で覆われている。栄養葉と胞子葉があり、春早く、こぶし状に巻いて根茎から東生し赤褐色の綿毛をかぶっている。綿毛は成長すると脱落する。山菜の一つ。

キラソノウ

キラソノウ(シソ科)

路傍や林縁に生える多年草。全体に毛が多く、茎、葉は地面を這って広がる。葉が地面に這ったようにこへまりつくことから、ジゴクノカマノフタ(地獄の釜の蓋)とも呼ばれる。また、春の彼岸の地獄の釜が開くと花が咲くからという説もある。花は長さ1cmほどの唇形で濃紫色。

ツリガネニンジン

ツリガネニンジン(キキョウ科)

山野の林縁や野原などに生える多年草。別名トキ。「山でうまいはオケラ(トキ)、里でうまいはナス、カボチャ、嫁にくれるも憎しゅうこざる」という俗謡があるほど、ツリガネニンジン(キキョウ科)は美味である。山菜の一つ。

ベニシダ

ベニシダ(オンダ科)

林下に見られる多年生のシダ植物。葉はやや太い斜上した根茎から東生し、1mほどになる。包膜は円腎形で全縁、包膜の若い時は紅色で美しい。暖地性のシダであるが、県内では、山北でも近年わりと普通に見られるようになった。温暖化の影響と思われる。

カシワ

カシワ(ブナ科)

山地や丘陵地の林内などに生える高さ10~15mになる落葉中高木。痩せた乾燥地でも生育し、火山地帯や海岸などに群落が見られることが多い。葉は大きく、縁に沿って丸く大きな鋸歯がある。堅果(ングリ)も大きく、総苞片が密生する殻斗に包まれる。秋に枯れた葉は、春に新芽が出るまで落葉しない。葉は柏餅を包むのに用いられる。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～春～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5



春4
ヒメタガンデソウ





ヒメタガンデソウ (ナデシコ科)

山地の草原や路傍に生える多年草。高さ10～15cmになり、葉茎に細毛がある。茎は直立し、上部で分枝し、花茎の先端に径1cmほどの白色の5弁花をつける。葉は対生し、長さ1～2cm。名は「小さなタガンデソウ」の意。別名の「オオヤマフスマ(大山衾)」は大きな夜具(布団)のこと。

春4
オオハナワラビ



オオハナワラビ (ハナヤスリ科)

山地の林下に秋から冬にかけて生じる冬緑性の多年生シダ植物。葉は年に1枚出て高さ30～50cm。葉柄は基部で2分し、1つは裸葉、1つは実葉となる。県内では大変稀なシダである。

春4
タチツボスミレ



タチツボスミレ (スミレ科)

山地林内から道端、人家周辺まで生育環境は広く、日本で最もふつふつに見られるスミレの一つ。花期には高さ10cmほどだが、花後30cmほどに伸びる。花は淡紫色で、名の「坪(ツボ)」は道端や庭の意味で、「立(タチ)」は花後に茎が伸び、しだいに立ち上がってくるからつけられた。

春4
ヤマモミジ



ヤマモミジ (カエデ科)

山地の湿った場所に生える高さ10～15mになる落葉高木。葉は掌状に7～9片に深裂し、裂片の先端は長く尖り、重鋸歯がある。花は6～7個集まって散房状の円錐花序となり、萼は赤色、花弁は白色で赤色の脈がある。果実は分離果でやや鋭角又は鈍角に開く。熟して分離した翼果は長さ2cmほどで、片側の種の重みと羽根でぐるぐる回りながら飛ぶ。

春4
ニオイタチツボスミレ



ニオイタチツボスミレ (スミレ科)

山地や丘陵地の林内、草地など、やや乾燥した場所に生える多年草。高さ10～25cmで、全体に毛が多い。根生葉は円心形、茎葉は三角状狭卵形で、葉の歯状に裂ける。径1.5cmほどの濃紅紫色の花をつける。タチツボスミレと比べ、花色が濃く、中央の白い部分がはっきりしている。名は「花に芳香があるタチツボスミレ」を意味するが、あまり匂わないものもある。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～春～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

<p>春5</p> <p>マルバアオダモ</p>  <p>マルバアオダモ(モクセイ科)</p> <p>日当たりのよい山地、丘陵地などの雑木林や谷筋に生える雌雄異株の落葉高木。高さ5～15mになる。葉は奇数羽状複葉で対生し、本年枝の先、葉腋より円錐花序を出し、4全裂した白色の花を多数つける。果実(翼果)は長さ2～3cmほどの倒披針形で、赤味を帯びる。</p>	<p>春5</p> <p>ギンラン</p>  <p>ギンラン(ラン科)</p> <p>山地や丘陵の林内に生える高さ10～30cmになる多年草。葉は3～8cmの長楕円形で、互生し、3～6枚つき、基部は茎を抱く。茎の上部に長さ1cmほどの白色の花を5～8個つけるがあまり開かない。唇弁の基部は短い距となる。</p>		<p>春5</p> <p>ヒメイズイ</p>  <p>ヒメイズイ(ユリ科)</p> <p>海岸や山地の草地などに生える多年草。茎に稜角があり、直立し、高さ8～30cmになる。葉は互生し、長さ4～7cmの長楕円形で、緑と葉裏の脈上に小突起がある。葉腋から長さ1.5～2cmの淡緑白色の筒状花を1～2個下垂する。果実(液果)は球形で黒紫色に熟す。名は「小さいアマドコロ」の意味で、「イズイ」はアマドコロ類の根茎を乾燥させた滋養強壮薬。</p>	<p>春5</p> <p>ウマノアシガタ</p>  <p>ウマノアシガタ(キンポウゲ科)</p> <p>日当たりのよい山野、田の畔、土手などに生える多年草。高さ30～60cmになり、茎、葉ともに毛が多い。根生葉の形が馬の蹄(ひづめ)に似ていることから名がついたと言われるが、実際にはあまり似ていない。茎先で分枝した先端に径2cmほどの黄色の5弁花をつける。毒草の一つ。芽生えの時期の姿が、薬草(民間薬)のゲンシウウコとよく似ているので注意が必要。</p>
<p>春5</p> <p>レンゲツツジ</p>  <p>レンゲツツジ(ツツジ科)</p> <p>日当たりのよい草地、山地の林縁などに生える高さ1～2mになる落葉低木。輪生状に分枝し、葉は互生し、長楕円形。葉より先に又は同時に、枝先に径5cmほどの、斑点がある濃朱紅色～黄色の花を2～8個つける。レンゲソウのように花が輪状に集まって咲くことから名がついた。有毒(牛馬の忌避植物)で食べられずに残り、群落が形成されることがある。</p>		<p>500km</p>	<p>N 23:05:18.2 E 158:34:27.5</p>	

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～春～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5



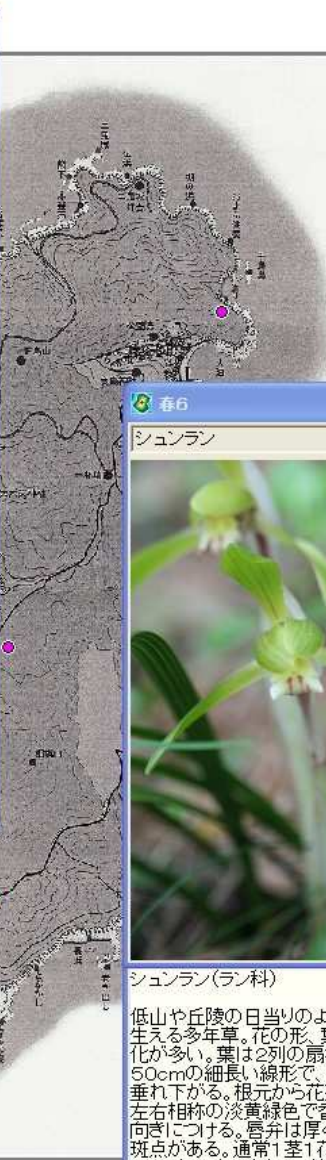
コウゾリナ(キク科)

日当りのよい原野、丘陵などに生える高さ60～90cmの多年草。全体に褐色の剛毛が多い。茎は直立して分枝し、根生葉はロゼット状に束生する。根生葉と下葉は柄があり、倒披針形。上葉は柄がなく披針形で、基部は茎を抱き互生する。茎上部の葉腋から花茎を出し、舌状花が集まった黄色の頭花をつける。名は、剛毛が皮膚に引っかかる様子をカミソリに見立てたもの。山菜の一つ。



カラスムギ(イネ科)

路傍や堤防、荒地などに生える一年草。ヨーロッパ、西アジア原産の史前帰化植物。高さ60cm～1mになり、葉は互生し、10～25cmの線形で鮮緑色。茎は直立し、茎の先にまばらな円錐花序を出し、1節に淡緑色の小穂を多数垂らす。小穂は長さ2～2.5cmで、普通3個の小花からなる。外花穎にはねじれた長い芒がある。名は「カラスが食べる麦」の意。



シュンラン(ラン科)

低山や丘陵の日当りのよい幹いた林内に生える多年草。花の形、葉の斑入り等変化が多い。葉は2列の扇状に出て、20～50cmの細長い線形で、上部は湾曲して垂れ下がる。根元から花茎を出し、先端に左右相称の淡黄緑色で香気のある花を横向きにつける。唇弁は厚く、濃い紅紫色の斑点がある。通常1茎1花であるが、稀に2～3個のものもある。葉草の一つ。



ヤブツバキ(ツバキ科)

海岸や山地の林内に生える高さ6～18mになる常緑高木。一般的にツバキと呼ばれ、園芸品種の基本種とされる。習性や花の咲き方、花形、花色などに変化が多い。葉は単葉で互生し、濃緑色で厚く光沢がある。径5～7cmの濃紅色の筒状5弁花をつける。花弁と雄しべが合着しているため、一花ごとに落花する。果実は径2cmほどの蒴果。種子から精油を搾油する。



ハインズ(ヒノキ科)

海岸の砂地や岩上に生える雌雄異株の常緑低木。幹は低く地を這って伸び、群落となる。名のネズとは同属の「ネズミサシ」のことで、ネズミを刺すほど葉が硬く、通り道に置くとネズミが通れないことに由来する。葉は1～2cmの針形で鋭く尖り、3輪生する。雄花は黄褐色、雌花は緑色。果実(球果)は径1cmほどで、翌年の秋に緑色～紫黒色に熟し、白い粉に覆われる。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ~春~

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

春7

コナラ [内容](#) [リンク](#)



コナラ(ブナ科)

日当たりのよい山地に生える高さ15~20mになる落葉高木。雌雄同株で雌雄異花。葉は互生し、長楕円形又は倒卵状楕円形で鋸歯がある。雄花は本年枝の下部に多数垂れ下がり、長さ5~9cmほどで黄褐色。雌花は本年枝の上部の葉腋から出るのが小さくて目立たない。果実(堅果)は1.5~2cmの楕円形で、杯状の殻斗から離れてドングリだけが落下する。

春7

フデリンドウ [内容](#) [リンク](#)



フデリンドウ(リンドウ科)

日当たりのよい山地の林内や草地に生える二年草。茎は直立し、高さ5~10cmになる。葉は密に対生し、柄がなく広卵形で、葉裏は赤紫色を帯びる。春、地面が枯葉や枯草に覆われているうちから、茎頂に青紫色の花を数個つける。根生葉は小さく、ロゼット状にならないので、他のリンドウとの識別は容易。蕾の形(花の開じた形)を筆の穂先に見立てて名がつけられた。

春7

ツタウルシ [内容](#) [リンク](#)



ツタウルシ(ウルシ科)

山地に生える雌雄異株の落葉つる性植物。茎から気根(空中に伸びた根)を出し、他の樹木や岩などを這い登る。葉は3出複葉で互生し、長さ5~15cm、幅3~9cm。新しい枝の葉腋から総状花序を出し、黄緑色の小花を多数つける。果実(核果)は径5~6mmの扁球形で、縦に筋があり、褐色に熟す。地面を這うこともあるので、ウルシがぶれに注意が必要。

春7

オオパンノキモトソウ [内容](#) [リンク](#)



オオパンノキモトソウ(イノモトソウ科)

山地の樹木下に見られる常緑性のシダ植物。根茎は短く横に這い、葉を多数つける。葉柄は長さ20~40cm、葉身は長さ10~40cmほど。県内が太平洋側北限。県内では仙南、及び金華山、出島、網地島などにも見られる。



春7

アスカインデ [内容](#) [リンク](#)



アスカインデ(オシダ科)

林下に見られる常緑性のシダ植物。インデに似るが、葉柄下部の鱗片は狭披針形で全縁、ややねじれる。中軸下部の鱗片は毛状である。県内では大変稀なシダである。

春7

キジムシロ [内容](#) [リンク](#)



キジムシロ(バラ科)

山野の草地、丘陵地、岩地などに生える多年草。高さ5~30cmになり、全体に粗い毛がある。葉は奇数羽状複葉で、小葉は5~9枚、頂小葉が特に大きい。集散状花序を出し、径1~1.5cmほどの黄色の5弁花をつける。果実(瘦果)は卵形。葉は全て根生で、花後に葉が大きく伸長するため、ムシロのように見える。「キジが座って休むムシロ」に見立てて名がつけられた。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～春～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

春日
ノアザミ



ノアザミ(キク科)
山地の草原、丘陵などに生える高さ50cm~1mになる多年草。茎は直立し上部で分枝する。根生葉は花時でも生存し、縁に刺が多く、表面と裏面脈上に毛がある。葉は互生し、基部は茎を抱く。枝先に管状花はかりの紅紫色の頭花をつける。総苞片は刺針のように鋭く、外側に隆起した粘着部がある。春に開花するアザミはこの種だけ。葉草、及び、山菜の一つ。

春日
フラサバソウ



フラサバソウ(ゴマノハグサ科)
ヨーロッパ、アフリカ原産の帰化植物で、畑や荒地などに生える越年草。明治初年に長崎で採取され、ヨーロッパのものと同じであることを初めて報告したFranchet氏とSavater氏を記念し、両氏の名前を略してフラサバ草と名がつけられた。花は小さく、薄い青色を帯び、全体に毛が多い。県内では稀に見られる。

春日
タブノキの芽生え



タブノキ(クスノキ科)
暖地の海岸に近い所に生える高さ1.5mにもなる常緑高木。庭園にも植えられる。黒藍色に熟した液果は、ワミネゴなどの鳥が好んで食べる。島に大変多い樹木の一つである。



春日
シャガ



シャガ(アマズ科)
山地の林内、丘陵など、やや湿った場所に生える常緑性の多年草。中国原産の史前帰化植物。高さ30~60cmになり、茎先に径5~6cmほどの6弁花をつける。花色は淡紫色で、黄橙色の突起があり、周囲に青紫色の斑点が入る。花は1日でしぼむが、次々と新しい花を咲かせる。三倍体のため種子は発生しない。名は、ヒオウギの漢名「射干」を日本読みしたもの。

春日
マメヅタ



マメヅタ(ウラボシ科)
山中の岩面や樹上などに着生する常緑性のシダ植物。根茎は長く横に這う。栄養葉は円形~楕円形、長さ1~2cm、胞子葉は線形~へら形、長さ約5cm。葉質は肉質で厚い。県内が北限のシダで稀である。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～夏～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

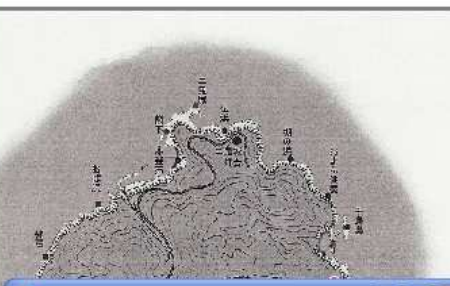
夏1

スカシユリ [内容](#) [リンク](#)



スカシユリ(ユリ科)

海岸の砂浜や岩場、崖を好んで生える多年草。園芸品種が多く、観賞用として多く栽培されている。花被(花弁とがく片)の下方がせまくなってすぎまがあることにより、スカシユリの名がついたといわれている。



夏1

ハマナデシコ [内容](#) [リンク](#)



ハマナデシコ(ナデシコ科)

岩手県以南の本州から中国に分布する多年草。海岸の砂浜や崖地などに生える。葉は厚くて光沢がある。別名フジナデシコ。

夏1

タブノキ [内容](#) [リンク](#)



タブノキ(クスノキ科)

暖地の海岸に近い所に生える高さ15mにもなる常緑高木。庭園にも植えられる。黒藍色に熟した液果は、ウミネコなどの鳥が好んで食べる。島に大変多い樹木の一つである。

夏1

ヤマユリ [内容](#) [リンク](#)



ヤマユリ(ユリ科)

山地に生える多年草。強烈的な芳香がある。島ではヤマユリの自生が多く、昔は掘り取った鱗茎は畑に栽培され、大きく育てたものを国外へ輸出していた。山菜の1つ。

夏1

トベラ [内容](#) [リンク](#)



トベラ(トベラ科)

岩手県以南の海岸に分布する雌雄異株の常緑低木。果実は秋に熟し、3つに割れ、種子は赤い粘液に包まれる。トベラの名は、独特の臭気のあるこの木を節分に戸口にさして鬼払いした風習から、扉の木が訛った名。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ~秋~

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

秋1
ミヤマガマズミ



ミヤマガマズミ(スイカズラ科)

山地の林内や林縁に生える高さ2~5mになる落葉低木。葉は単葉で対生し、長さ4~9cmの倒卵状楕円形又は卵状楕円形。葉先が尾状に伸びて急に鋭く尖る。葉柄や葉脈上に長い絹毛が散生している。本年枝の先に散房花序を出し、白色の小花を多数つける。果実(液果)は8mmほどの球形~卵形で赤く熟す。深山(ミヤマ)の名がついているが、低地でも見られる。

秋1
ミズヒキ



ミズヒキ(タデ科)

山地の日当たりのよい林内や林縁、路傍などに生える多年草。高さ30~80cmになり、全体に粗い毛がある。葉は互生し、長さ6~15cmの広楕円形で、先端は尖る。茎先から数本の長い花茎を出し、総状花序を形成し、まばらに小花をつける。上半分は赤色、下半分は白色の花を、紅白の「水引」に見立てて名がつけられた。

秋1
ハナタデ



ハナタデ(タデ科)

山野の林内や路傍などの湿った場所に生える一年草。竹林や林縁の藪などにも多いので「ヤブタデ」の別名がある。茎は分枝し、高さ30~60cmになる。葉は互生し、卵形~長卵形で、先端は急に細くなり尾状に尖り、両面にまばらに毛があり、黒斑が入るものが多い。花穂は細長く、紅色~淡紅色の小花をまばらにつけて、垂れ下がる。

秋1
イノコズチ



イノコズチ(ヒユ科)

山野、道端などに生える高さ90cmにもなる多年草。茎は四稜形で対生の枝を出し、節は太くふくらんでいる。葉は対生し、楕円形で柄があり、先端は尖っている。葉の基部にまばらな毛がある。茎の先端や葉腋から細長い花軸を伸ばし、緑色の小花を穂状につける。

秋1
ガマズミ



ガマズミ(スイカズラ科)

日当たりのよい山野に生える高さ2~4mになる落葉低木。幹の髄は大きく白色で中心は褐色を帯びている。葉は対生し、柄があり、広卵形や円形で変化が多い。葉柄、表裏ともに毛があり、裏面には腺点がある。枝先に花茎を出し、散房状に白色で柄のある5弁花を多数つける。果実(液果)は卵形で、秋に鮮紅色に熟し、後に暗赤色となる。熟果は甘酸っぱい。



秋1
アキノゲシ



アキノゲシ(キク科)

林縁、道端、草地などに生える一年草又は越年草。茎は直立し、高さ1.5~2mにもなり、上部は分枝する。葉は互生し、長楕円状披針形で逆向きの羽状に分裂し、基部は茎を抱く。葉は濁った黄緑色、切り口から白い乳液を出す。舌状花だけの淡い黄色の頭状花をつける。花は夕方にはまぼむ。レタス、サラダ菜は、このアキノゲシに近い種類である。山菜の一つ。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7



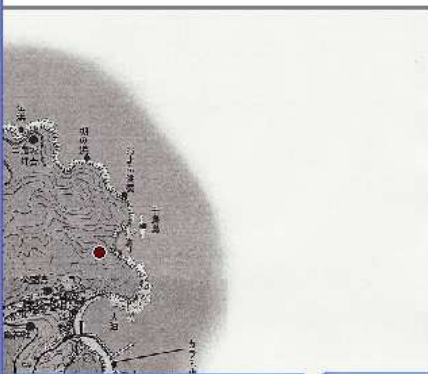





500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～秋～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

<p>秋2 アレチウリ</p> 	<p>秋2 メナモミとアレチウリ</p> 		<p>秋2 オニヤブマオ</p> 
 <p>アレチウリ(ウリ科)</p> <p>北アメリカ原産の帰化植物で、放棄畑や河原などに生える蔓性の一年草。雌雄同株。旺盛な繁殖力で群落になり、問題となっている植物の一つ。茎は数mにもなり、大きめの葉は背の低い植物を覆いつくす。葉腋から花序が出て、濃い黄白色の花をつける。アレチウリは窒素を吸収する力が高いとの指摘がある。</p>	<p>メナモミ(キク科)</p> <p>土手、田の畔などに生える高さ1mほどの多年草。茎は直立して上方で分枝し、株全体に毛が密生する。葉は対生し、卵形～三角状卵形で尖る。上部の葉腋から総状花序を出し、黄色の頭花を多数つける。外側が舌状花(雌性)、中心が管状花(両性)で、いずれも結実する。総苞片にある腺毛が粘液を分泌し、衣服、動物などにつぎ種子が散布される。葉草の一つ。</p>	<p>秋2 オオウバユリ</p> 	<p>秋2 タムラソウ</p>  <p>オニヤブマオ(イラクサ科)</p> <p>海岸近くの山野に生える多年草。全体が大形で、高さ1.5mにもなる。葉は強剛で、裏面にコロド状の毛が密生し、縁は重鋸歯にならない。</p>
	<p>オオウバユリ(ユリ科)</p> <p>山麓や谷間の木陰、草地、藪などに生える高さ2m以上になる大型の多年草。地下の鱗茎は根生葉の柄の基部が大きくふくらんで重なったもので、若い株だけにある。葉は茎の中途に数枚かたまって互生し、広楕円状心臟形で鋭く尖り、長い柄がある。茎先に花序を出し、緑白色の6弁花を10～20個つける。花の時期に葉(歯)がないので姥という名がついた。山菜の一つ。</p>	<p>タムラソウ(キク科)</p> <p>日当たりのよい山地の草原などに生える多年草。高さ90cm～1.5mになり、上方がまばらに分枝する。枝先にアザミによく似た、多数の筒状花からなる径3～4cmの紅紫色の花を上向きにつける。花柱の先が2つに分かれて反り返る。葉もアザミに似て羽状に深く切れ込むが、刺はなく、質も柔らかく、両面に細毛がある。果実(瘦果)は6mmほどで、冠毛は羽毛状にならない。</p>	

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ~秋~

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

秋3

ノコンギク

内容 リンク



ノコンギク(キク科)

日当りのよい林縁、原野、道端などに群生する。高さ1mにもなる多年草。茎は直立し、上方で分枝する。葉の両面に毛がある。茎先に頭花を散房状につけ、まわりの舌状花は淡紫色、中心の管状花は黄色。繁殖力が旺盛でどこにでも生え、花も美しいので観賞用に庭に植えてもよい。

秋3

ハツタケ

内容 リンク



ハツタケ(ベニタケ科)

傘は径5~10cm。表面は淡紅褐色、淡黄赤褐色などで、濃色の環紋がある。傘や柄は傷つくと暗赤色の乳液がにじみ出て、やがて青緑色のしみに変わる。夏~秋、アカマツやクロマツなどの林内に発生し、食べられる。

秋3

ヌスビトハギ

内容 リンク



ヌスビトハギ(マメ科)

山地の草地、道端、林縁などに生える多年草。60~100cm位になる。和名の盗人萩の名は、豆果の形をしのび足で歩く盗人の足の形に見立てたことによる。豆果は、表面に密生したカギ状の毛があり、動物などにくっつく。

秋3

ユウガギク

内容 リンク



ユウガギク(キク科)

日当りのよい林縁、河川敷など、やや湿った場所に生える高さ40cm~1.5mになる多年草。地下茎で増え、群落を形成する。茎はやや斜めに立ち、よく分枝し、枝先に径2.5~3cmの白色の舌状花をつける。葉は互生し、長楕円形で、全縁、粗い鋸歯、羽状に裂けるなど変化がある。袖子の香りがするので「袖香菊」の名がつけられたと言われるが、ほとんど香りはない。

秋3

チカラシバ

内容 リンク



チカラシバ(イネ科)

草原や堤防などに生える高さ30~80cmの多年草。種子と地下茎で繁殖し群生する。強い根を張り、力を入れても抜けないことから名がつけられた。葉は根元から出て、細長く、短毛がある。直立した花茎の先に長さ10~20cm、径2cmほどの穂状花序を出し、暗紫色の剛毛が生えた小穂を多数つける。果実は先端の毛と共に外れ、衣服、動物などにつき種子が散布される。



秋3

マルバハギ

内容 リンク



マルバハギ(マメ科)

日当たりのよい山地の林縁などに生える落葉低木。高さ3mほどになる。ヤマハギと比べ、葉が丸く、葉の脇に葉より短い総状花序を出して花をつける。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～秋～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5



ヤマノイモ(ヤマノイモ科)

平地から山地、丘陵、雑木林などに生える蔓性の多年草。雌雄異株。他の植物などに巻きついて5m以上にもなる。根茎は長い多肉根で、シネンショウと呼ばれる。上方が細く、下方ほど太くなり、まばらに分枝する。葉は対生し、長柄があり、長卵形で尖り、基部は心臓状耳形。葉腋に細長い穂状花序を出し、白色の小花をつける。秋、葉腋にムカゴをつける。山菜の一つ。



オニドコロ(ヤマノイモ科)

山地の林内、藪などに生える蔓性の多年草。雌雄異株。ヤマノイモに似ているが多肉根はなく、苦味があり食用には適さない。葉は互生し、長さ4~12cmの円心形又は三角状心形で尖る。葉腋から、雄花序は直立し淡黄緑色の花を多数つけ、雌花序は下垂し白色の花被片で、基部は細長い楕円形。果実(蒴果)は車輪形で3個の翼があり、穂状に多数つく。



センニンソウ(キンボウゲ科)

山野、路傍などに生える常緑つる性の多年草。白色の花はたくさん集まって咲き、遠からでも目立つ。有毒植物の一つ。



チチアワタケ(イグチ科)

傘は4~10cm、表面はくり色~黄褐色で強い粘性がある。管孔は黄色のち黄褐色となり孔口は小形。若い時には黄白色の乳液を分泌する。夏~秋、アカマツやクロマツ林内に発生、食べられる。



ノイバラ(バラ科)

原野や河原などの日当たりのよい場所に生える落葉低木。花は枝先に円錐花序を作って開く。秋に赤い果実が稔り、民間薬として利用される。



オオバイボタ(モクセイ科)

海岸近くの低い山に生える半落葉低木。高さ2~5mほどになる。公害や病虫害にも強く、公園や庭園などにも植えられる。島には多く見られる。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～秋～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5



秋5

オトギリソウ 内容 リンク

オトギリソウ(オトギリソウ科)

山野に生える、高さ30～60cmほどになる一年草。弟切草の名は、兄が秘密にしていた鷹の傷薬を弟が他人にもらしたために怒った兄に斬り殺されたという平安時代の伝説からつけられたと言われる。民間薬の一つ。

秋5

ヒガンバナ 内容 リンク

ヒガンバナ(ヒガンバナ科)

道端や堤防などに生える多年草。中国原産の史前帰化植物。秋彼岸の頃真っ赤な花をつける。毎年花は咲かせるが、種子はならない。地下のチューリップに似た鱗茎を増やして増殖する。葉は線形で長さ30～60cmで濃緑色。開花した後に葉が出て、翌年の4月頃枯れる。リコリンという毒を持つ有毒植物の一種だが、鱗茎からでんぷん粉をとり食用にすることがある。

秋5

オニグチモドキ 内容 リンク

オニグチモドキ(オニグチ科)

傘は径3～10cm、表面はほぼ黒色のややかたい角状～とげ状の鱗片で覆われる。管孔はほぼ白色のち暗灰色～黒色。夏～秋、ブナ科の木が多い林地に生え、食べられる。

秋5

ヒサカキ 内容 リンク

ヒサカキ(ツバキ科)

山地の林内に生える高さ4～7mになる常緑小高木。雌雄異株。葉は互生し、倒卵状長楕円形又は長楕円形で、厚く、光沢がある。葉腋に径5～6mmの鐘形の5弁花を多数つける。雄花は白色、雌花はやや紫色を帯び、下向きに咲く。果実(液果)は球形で紫黒色に熟す。名の由来は、小さい神を意味する「姫神」が訛ったという説、神ではないので「非神」という説がある。

秋5

ヤブマメ 内容 リンク

ヤブマメ(マメ科)

林縁、草原、道端などに生える蔓性の一年草。葉は3出複葉で互生し、小葉は長さ3～6cmの広卵形で両面に毛がある。葉腋に総状花序を出し、淡紫色の蝶形花をつける。長さ1.5～2cmで、旗弁は紫色、翼弁と竜骨弁は白っぽい。地下にも結実する閉鎖花があり、種子は1つしかなく、地上の種子よりも大きい。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～秋～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5



秋6

ヒヨドリバナ



ヒヨドリバナ(キク科)

低山の草地や林内、林縁など、日当たりのよい場所に生える多年草。高さ1～2mになり、茎は直立し、縮れた毛があり、紫色の細かい点がある。茎節に白色又は淡紫色の小さな筒状花が多数集まり、散房状に花をつける。葉は対生し、細長く、先端は尖り、粗い鋸歯があるが、葉の形や大小など形態に変化が多い。ヒヨドリが鳴く頃に開花することから名がついた。

秋6

センブリ



センブリ(リンドウ科)

日当たりのよい草地などに生える高さ20～25cmになる二年草。茎は直立して分枝し、暗紫色を帯びる。葉は対生し、線形又は線状楕円形。枝先や葉腋に円錐花序を出し、白色で紫色の条線のある小花をつける。全体に強い苦味があり「千回振りだしてもまだ苦味がある」という意味で名がつけられた。当薬(トウヤク)の別名もあり「病によく当たる」の意味。菓草の一つ。

秋6

コハシゴシダ



コハシゴシダ(ヒメシダ科)

林縁や村落内の人家の石垣などにも見られる小型のシダ。葉柄は長さ3～20cm、葉身は長さ10～17cmほど。これまで本州(新潟県、石川県、関東南部以西)～琉球に分布。平成19年1月に田代島でも見つかリ、東北ではじめて確認された。田代島が北限のシダである。

秋6

ウラボシ



ウラボシ(ウラボシ科)

暖地の山中に生える常緑性の大型のシダ。根茎は地中を長く横に這う。葉身の上面はつやがあり緑色、裏面は白い。高さは葉柄、葉身合わせると2mにもなるものがある。葉を新年の装飾に用いる。県内では田代島だけに見られ、北限のシダである。

秋6

ホラシノブ



ホラシノブ(ホンダウシダ科)

山地の道端などの日の当たる場所に見られる暖地性の常緑性の多年生シダ植物。葉柄は10～40cm、葉身は20～60cmほどになるが、島内のものは大変小形である。県内では田代島だけに見られ、北限ということで大変貴重なシダである。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～秋～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5



ツルリンドウ (リンドウ科)

山地の木陰に生える蔓性の多年草。高さ40cm～1mで、蔓は紫色を帯びる。葉は対生し、葉身は卵状披針形で、葉腋に薄紫色の花をつける。花色は白色に近いものもある。果実はやや長い円形の液果で紅紫色。



ハマギク (キク科)

茨城県から青森県の太平洋岸の崖地、草地、砂地などに生える多年草。高さ1mほどになる。観賞用として栽培される。島では多く見られる。





アキノキリンソウ (キク科)

日当たりのよい雑木林、草原などに生える高さ50cmほどの多年草。茎は直立し、時に分枝する。葉は互生し、下葉は卵形又は長楕円状披針形で鋭く尖り、基部は丸形又はくさび形。根生葉は長柄、下葉と中葉は有翼の柄、上葉は無柄となる。茎の上部に円錐状の穂を作り、黄色の舌状花(雌性)と管状花(両性)を多数つけ、上から順に咲く。薬草、及び、山菜の一つ。



ヤマハッカ (シソ科)

里山の谷筋や林縁、山地草原などに広く生える多年草。青紫色の花を咲かせる。長く伸びた花序のそれぞれの場所に蕾と花殻があり、どの部分にも開花している花があるので、長い期間、美しい花を見ることが出来る。ハッカに似ている山に生えるので名がつけられたが、香気はほとんどない。



ゲンショウコ (フウロソウ科)

山野、道端、畑の畔などに生える多年草。茎は地面を這い、又は多少直立して分枝する。枝先又は葉間に花柄を伸ばし、先端に白色～紅紫色の5弁花を2～3個つける。花後長いくちしのある蒴果を結び、熟すと5裂して種子を散らす。ドクダミと並び、昔から薬草としてよく知られ、利用されてきた。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ~冬~

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

冬1

ミドリハコベ [内容](#) [リンク](#)



ミドリハコベ(ナデシコ科)

道端や畑などに生える越年草。高さ10~30cmで、茎には片側に1列に並んで毛がある。葉は対生し、1~2cmの卵円形又は卵形で、無毛。径5~7mmほどの5弁花をつける。ハコベ属に共通する特徴として、5枚の花弁が深く2つに裂けており10枚あるように見える。花柱は3本。果実(蒴果)は卵形で6裂し、種子には尖った突起がある。

冬1

カワラナデシコ [内容](#) [リンク](#)



カワラナデシコ(ナデシコ科)

山野、田の畔、川原などに生える高さ50cm以上にもなる多年草。茎は直立し数本叢生し、上方で分枝し、節がある。葉は対生し、線形又は線状披針形で、茎とともに緑白色。分枝した茎の先に淡紅色の美しい5弁花をつける。花弁の先端は糸状に裂けている。花後、円柱形の蒴果を結ぶ。古くから歌にも詠まれ、親しまれてきた。秋の七草の一つ。

冬1

ウラジロのある林道 [内容](#) [リンク](#)





冬1

島の看板 [内容](#) [リンク](#)



島の看板

田代島の地図、見どころなどを紹介している案内看板。




ウラジロ(ウラボシ科)

暖地の山中に生える常緑性の大型のシダ。根茎は地中を長く横に這う。葉身の上面はつやがあり緑色、裏面は白い。高さは葉柄、葉身合わせると2mにもなるものがある。葉を新年の装飾に用いる。県内では田代島だけに見られ、北限のシダである。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ~冬~

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

冬2

コバノセンダングサ 内容 リンク



コバノセンダングサ(キク科)

南アジア原産の帰化植物で、日当たりのよい畑地、道端、荒地などに生える一年草。高さ30~90cmになり、茎は直立し、よく分枝する。葉は上部で互生、下部では対生し、2~3回羽状に深裂する。茎頂に径1cmほどの黄色の頭花をつけ、舌状花は0~3個。果実(瘦果)は線形で、逆向きの刺がついた冠毛が3~4本あり、衣服、動物などにつき種子が散布される。

冬2

二鬼城燈台 内容 リンク



二鬼城燈台

島の最も北側に位置する所にある二鬼城燈台。その先はまもなく道路が切れ、魚つき保安林の看板が...

冬2

魚つき保安林 内容 リンク



魚つき保安林

魚の棲みよい環境をつくり、魚の繁殖を助けるという魚つき保安林。

冬2

コバシゴシダ 内容 リンク



コバシゴシダ(ヒメシダ科)

林縁や村落内の人家の石垣などにも見られる小型のシダ。葉柄は長さ3~20cm、葉身は長さ10~17cmほど。これまで本州(新潟県、石川県、関東南部以西)~琉球に分布。平成19年1月に田代島でも見つかリ、東北ではじめて確認された。田代島が北限のシダである。

冬2

オオバノイノモトソウ 内容 リンク



オオバノイノモトソウ(イノモトソウ科)

山地の樹木下に見られる常緑性のシダ植物。根茎は短く横に直り、葉を多数つける。葉柄は長さ20~40cm、葉身は長さ10~40cmほど。県内が大太平洋側北限。県内では仙南及び、金華山、出島、網地島などにも見られる。

冬2

魚つき保安林 内容 リンク



魚つき保安林

魚の棲みよい環境をつくり、魚の繁殖を助けるという魚つき保安林。

冬2

オオバノイノモトソウ 内容 リンク



冬2

魚つき保安林 内容 リンク



N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

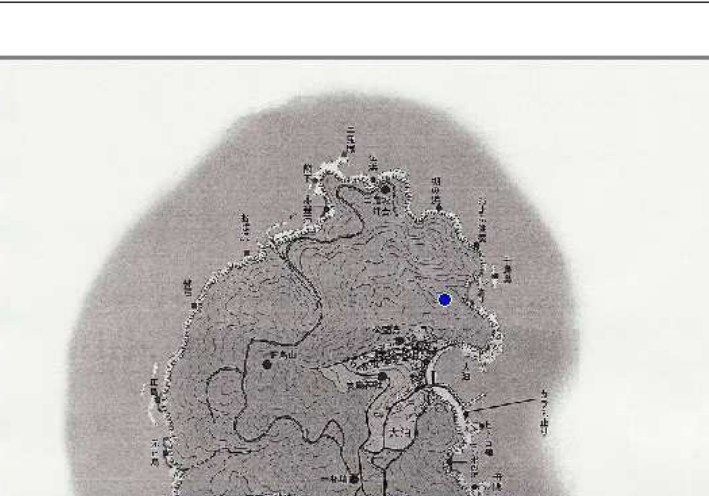
田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～冬～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5



タブノキ(クスノキ科)
暖地の海岸に近い所に生える高さ15mにもなる常緑高木。庭園にも植えられる。黒藍色に熟した液果は、ウミネコなどの鳥が好んで食べる。島に大変多い樹木の一つである。



ミヤマウズラ(ラン科)
山地の林内に生える多年草。茎の基部は横に倒れ、上部は立ち上がって高さ10～20cmほどになる。葉は互生し、先端が尖った狭卵形。葉の表面に白色の斑紋があり、ウズラの卵に似ていることから名がつけられた。綿毛を密生した花茎には、一方向に偏って、1cmほどの白色又は淡紅色の花を5～10個つける。深山(ミヤマ)の名がついているが、低地でも見られる。



クロマツ植林
島にはクロマツの植林地が多く見られる。近年、そのクロマツ林がマツクイ虫にやられて、そのほとんどが枯れてしまい、新たに植林された場所も見られる。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～冬～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

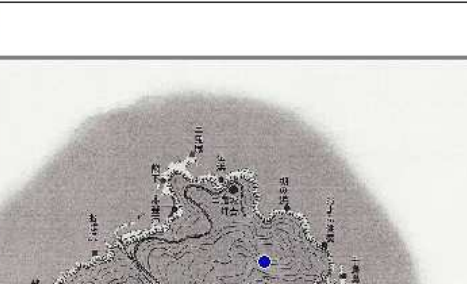
冬4

アスカインデ



アスカインデ(オンダ科)

林下に見られる常緑性のシダ植物。インデに似るが、葉柄下部の鱗片は狭披針形で全縁、ややねじれる。中軸下部の鱗片は毛状である。県内では大変稀なシダである。



冬4

フユハナワラビ



フユハナワラビ(ハナヤスリ科)

向陽の山地、原野に生える冬緑性のシダ。毎年1本の葉柄を出し、高さ30~40cmの葉柄は基部から2つに分枝し、1つは裸葉(栄養葉)、他の1つは実葉(胞子葉)となる。県内には広く分布する。

冬4

テイカカズラ



テイカカズラ(キョウチクトウ科)

岩手県以南に分布する常緑のつる性の木で、附着根を出して他物に這い上がる。宮城県では海岸地域に多く見られる。果実は細長いさや状で、長さが20cm以上にもなるものもある。

冬4

センニンソウ



センニンソウ(キンボウゲ科)

山野、路傍などに生える常緑つる性の多年草。白色の花はたくさん集まって咲き、遠くからでも目立つ。有毒植物の一つ。

冬4

オニヤブソテツ



オニヤブソテツ(オンダ科)

海岸地方に多く見られる常緑性の強壮なシダ。葉は長さ60cm~1m、葉柄は太く丈夫で、下部には広卵形、褐色の膜質鱗片を密生する。葉面は濃緑色、厚い革質で強い光沢がある。県内では沿岸沿いにわりと多く見られる。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～冬～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5

冬5

大六天神社

内容 リンク



大六天神社

仁斗田港から4.6kmほどの所にある。タブノキの古木も見られ、大変落ち着きのある所。

冬5

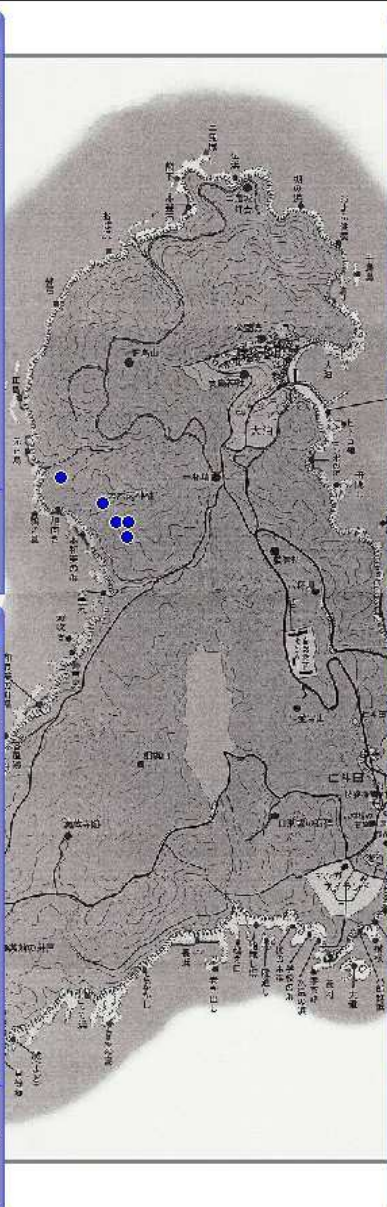
タブノキ林

内容 リンク



タブノキ(クスノキ科)

暖地の海岸に近い所に生える高さ15mにもなる常緑高木。庭園にも植えられる。黒藍色に熟した液果は、ウミネコなどの鳥が好んで食べる。島に大変多い樹木の一つである。



冬5

マメヅタ

内容 リンク




マメヅタ(ウラボシ科)

山中の岩面や樹上などに着生する常緑性のシダ植物。根茎は長く横に這う。栄養葉は円形～楕円形、長さ1～2cm、胞子葉は線形～へら形、長さ約5cm。葉質は肉質で厚い。県内が北限のシダで稀である。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5

田代島の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～冬～

N 46:30:51.1 E 118:18:36.7

N 46:30:51.1 E 158:34:27.5



冬6 鹿嶋神社 内容 リンク

鹿嶋神社

大泊港から西側を見ると、真正面に鹿嶋神社が見える。右段を昇っていく両脇にはブナの大木、その下にはトウゴクシダの群落が見られる。



冬6 タブノキ 内容 リンク

タブノキ(クスノキ科)

暖地の海岸に近い所に生える高さ15mにもなる常緑高木。庭園にも植えられる。黒藍色に熟した液果は、ウミネコなどの鳥が好んで食べる。島に大変多い樹木の一つである。



冬6 トウゴクシダ 内容 リンク

トウゴクシダ(オンダ科)

暖地の山地に生える常緑性のシダ。根茎は粗大で短く斜上し、長さ50cm~1mばかりの葉を束生する。ベニシダと大変よく似ており、区別しにくい。県内の山北では大変珍しいシダであったが、近年山北でも多く見られるようになった。



冬6 フキトウ 内容 リンク

フキトウ(キク科)

原野、河岸、山地の谷間など、湿った場所に群生する雌雄異株の多年草。根茎は短く、地中枝の先端に新芽をつけ繁殖する。根茎から花茎を出し、花序ははじめ大形の鱗片に包まれて短く、花茎が伸びると管状花が集った白色の頭花を総状につける。雄花は白黄色。円状腎臓形の幅15~30cmの葉を持つ長い葉柄をフキ、短い花序をフキトウと言う。山菜の一つ。



冬6 ヒトデを乾かすおばあさん 内容 リンク

ヒトデを乾かすおばあさん

大泊港の北側で2人のおばあさんが腰をかけ、何かしら話をしていた。そのそばにはヒトデが。話を聞くと乾燥したヒトデを畑に入れるとよい肥料になるということ。

N 23:05:18.2 E 118:18:36.7

500km

N 23:05:18.2 E 158:34:27.5